

スポンサー様

TACLOBAN International Jet Ski Competition



開催日

6月23日

開催場所

フィリピン タクロバン

出場クラス

Pro Ski Open

Pro/Am R/A Limited

Pro R/A Open

Endurance R/A Open

結果

Pro Ski Open 4位

Pro/Am R/A Limited 優勝

Pro R/A Open 優勝

Endurance R/A Open 優勝

全日本選手権から早 1 週間、フィリピンはタクロバンにて「TACLOBAN International Jet Ski Competition」が行われました。ランナバウトのクラスには KAWASAKI 300LX 改で出場し、スキークラスは当初用意していたハイドロスペース S4 のトラブルにより急遽 KAWASAKI SXR で出場しました。

Pro Ski Open

Pro Ski Open にはドバイから来た世界チャンピオン XBJ チームのオマール選手、タイのフラミンゴチームからはポン選手が S4 で参戦し、フィリピン国内チャンピオンのポール選手は 1100SXR、他にも 1100 cc の SXR やブレットハルの SXR などポテンシャルの非常に高いレーサーが多数参戦していました。

Moto1 ではインコースの 2 番で合流では 4 位でした。1 位オマール選手、2 位ポール選手、3 位ポン選手、4 位が自分というような順番でした。4 周目にポン選手がポール選手を抜いたので僕も続いて抜きにかかろうとしたのですが、周回数が足らず 4 位でゴールとなりました。

Moto2 もインコースの 2 番で合流も 4 位でした。今回も 3 位を走行していたポール選手を抜こうと頑張ったのですが、自分の 1 回のミスが響き Moto2 も 4 位に甘んじました。

Pro/Am R/A Limited

Moto1 ではアウトコースからのスタートでした。少しスタートが出遅れてしまい、一番内側にいた 300X と競り合いながら 1 ブイに並ぶようにして 2 台で進入しました。相手が一瞬アクセルオフをした瞬間を狙い被せきり、アウトのホールショットでホームストレートに帰ってきました。合流でも 1 位であった為、後は 2 位のライダーとの間合いを確認しながらエンジンを温存して走り、1 位でチェッカーフラッグを受けました。

Moto2 ではインコースからスタートをし、ホールショットで合流でも 1 位のままホームストレートを通過しました。Moto2 今回も危なげなく 1 位のままゴールする事ができました。

Pro R/A Open

このクラスではフィリピンではスター的存在の”ポール選手”と同じクラスでした。タイの King's Cup では Moto4 でポール選手に勝てたもののそれ以外のヒートでは勝てなかったので、“ここでは負けたくない!” と思いこのレースに臨みました。

Moto1 のスタートグリッドは、ポールがアウトを選択したので僕はインを選びました。スタートでは途中で接触があったもののなんとかインのホールショットを獲れました。合流でポールと並び、ホームストレートエンドの 1 点ブイではアウト側にいたポールよりも先に進入し 1 位になりました。その後は追いつかれることもなくトップフィニッシュでき

ました。

Moto2 も僕がインからスタートをし、ポールがアウトからスタートしました。今回もホールショットが獲れ、僕がノーミスで曲がってこれたので合流でも 1 位でした。その後はポールの追走から逃げ切り、1 位でゴールできました。

Endurance

フィリピンの耐久レースは、周回数こそ 3 周と決められているのですが、コースはどこにブイが置いてあるのか全く見当がつかない程遠いブイを合計 3 点回ってくるというものでした。水面は全く荒れていなかったのも、マレーシアの大波の中 90 分走る Endurance よりは相当楽に感じられました。スタート方法はル・マン方式で、浜から走って水辺にある船に乗りこむというものでした。

スタートの合図とともに一斉に走り出し、僕は功を制し一番早くエンジンをかけてスタートさせました。しかし一番早くスタートをしたものの、ずーっと全開で走っているのにブイが見当たりません。ほとんどのライダーがキョロキョロと辺りを見回しながら全開で走っていたと思います。そんな中、大体の予測で 1 つ目のブイを見つける事ができ 1 位で曲がりました。そして次はスタートしてきた方向にあるブイを目指してひたすら全開で走り、またキョロキョロと辺りを見回しながら 2 つ目のブイを目指します。なんとか 2 つ目のブイを見つけてそこに向かっている途中、自分がブイを見間違えていることに気づき向きを変えながら走っていると、せっかく稼いだ 2・3 位艇とのアドバンテージがほぼなくなる所まで追いついてきてしまいました。しかし、TOP の座を死守し 1 位のまま 2 つ目のブイを曲がり、また 3 つ目のブイまで果てしなく走り続けます。自分が間違った方向に進んでいないか不安になりながらもなんとかブイを見つけて曲がりました。後はスタート後の 1 ブイに向けてまた走っていただけだったのでブイを容易に見つける事ができ、3 周トップのまま逃げ切って優勝しました。

レースを終えての感想

フィリピンでのレースは今回が初参戦であった為、わからない事が沢山あり戸惑う事だらけでしたが、今までの国際大会の経験をフルに活用し、予想以上の結果を残すことができとても満足しています。特にランナバウトでは出場したクラス全てを実力で優勝する事ができ、沢山のライダーに認めてもらう事ができました。また、様々なメディアの方に取り上げて頂けた事もとても嬉しく感じています。このような経験をさせて頂けることも一重にスポンサーの皆様のお陰だと感じています。本当にありがとうございました。

次のレースは 2 週間後の全日本選手権です。次回のレースまでに船の調整を重ね、好成績が残せる様に精進して参りたいと思います。今後とも応援の程宜しくお願い致します。



Team WPS Japan
#1 小原 聡将